

臨 床 A-1

教師アイデンティティの危機と相談活動の有無による教師の4タイプ

伊藤美奈子

(お茶の水女子大学生活科学部)

近年、学校現場における子どもの心の問題が深刻化する中、教師に対してカウンセリング的な対応が求められつつある。こうした現場のニーズに応える形で、各地で教師を対象とした研修会が実施されている。しかし、カウンセリング的な対応を学ぶ過程において、両役割が葛藤を生じ、教師としてのアイデンティティが混乱することも少なくない。本研究では、教師アイデンティティの危機感と相談活動の有無を2つの基準とし、4タイプの教師の特徴を探ることを目的とする。

【方 法】

調査対象 新任研修に参加した教師（男性50名・女性107名）と、ベテラン教師（男性88名・女性42名）。ベテラン教師の平均教歴年数は14.7年。

調査尺度 ①教師アイデンティティ尺度（西本, 1996）より、アイデンティティの拡散を意味する2因子15項目を用い（5件法）、その合計を“危機”得点とする。②“教育相談に関する意見”項目（伊藤, 1997）より、〈活動意欲〉5項目と〈意義認識〉3項目を用い、合計点を“相談活動”得点とする。3件法。③役割葛藤尺度：教師という立場でカウンセリングを行う際の難しさを測定する15項目（伊藤, 1997）。〈役割混乱〉〈時間空間の欠如〉〈資質上の悩み〉の3因子。4件法。④教師としての能力評価の指標となる〈学級運営能力〉4項目・〈友達的関わり〉3項目（伊藤, 1995）について「あてはまる」から「あてはまらない」までの4件法で尋ねた。

⑤「所属校の雰囲気」を11の形容詞（冷たい・窮屈なetc. : 5件法）で回答を求め、その合計を“周りへの違和感”得点とした。これらの質問に加えて性別・校種・教師歴などを尋ねた。

調査時期 1996年7月～8月。集団で実施した。

Table 1 4タイプの各得点の平均と分散分析結果

	Aタイプ 危機なし・相談なし 得点のレンジは1-5点	Bタイプ 危機なし・相談活動 79人	Cタイプ 危機・相談活動なし 85人	Dタイプ 危機・相談活動 57人	F 値	分散分析 多重比較
周りへの違和感	2.40 (.55)	2.63 (.77)	2.74 (.65)	2.98 (.88)	7.65**	A, B < D, A < C
役割混乱	2.16 (.40)	2.35 (.50)	2.49 (.55)	2.64 (.51)	11.19**	A < C, D, B < D
時間空間欠如	2.80 (.61)	3.16 (.67)	3.02 (.62)	3.18 (.68)	5.57**	A < B, D
資質上の悩み	2.74 (.46)	2.94 (.45)	3.09 (.50)	2.98 (.50)	7.01**	A < B, C, D
学級運営能力	2.49 (.53)	2.62 (.50)	2.27 (.55)	2.35 (.67)	5.96**	C, D < B
友達的関わり	3.00 (.46)	2.98 (.52)	2.71 (.58)	2.95 (.47)	5.66**	C < D, B, A